

生活保護切り捨てダメ

福井 吉永教授(花園大)が講演



貧困問題について考える催しが29日、福井市のフェニックス・プラザで

開かれた。専門家は生活保護改革に伴う受給者への悪影響を説明した。

人間らしい生活と労働

生活保護問題について講演する吉永教授。福井市のフェニックス・プラザ

の保障を訴えて全国を巡回する「反貧困全国キャラバン」の福井実行委員会が企画。弁護士や司法書士、労働者ら約70人が参加した。

花園大学の吉永純教授が「命の最終ライン 生活保護の切り下げと切り捨てを許さない」と題して講演した。今後3年間で、生活扶助費は過去最大の740億円が引き下げられると説明。生活費

がかかる子育て世帯の下げ幅が大きいことを指摘し「(改革は)矛盾している」と強調した。

また、現行法は口頭で生活保護が申請できるのに対し、6月の国会で廃案となった改正案は原則、規定の書類や関係書類を提出しなければならず「複雑化させている」と指摘。「(次は)もっとひどい法案が出てくるかもしれない」と危機感を募らせた。